

事 業 実 績 報 告 書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名　宝塚山手台東自治会

1 事業名	みんなで楽しく備蓄を進めよう！！ ～備蓄＆ローリングストックの組み合わせ～ 山手台東自治会秋祭り連動企画
2 事業の内容 (実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入してください。)	<p>毎年恒例の山手台東自治会の秋祭りの連動企画として、防災イベントとりわけ備蓄品に着目したイベントを企画しました。</p> <p>多くの地域住民に参加してもらうため、防災イベントに加えコンサートも開催しました。</p> <p>実施日時 10月7日（日）10時～15時</p> <p>コンサート 第1回 10時30分～11時15分 第2回 13時00分～13時45分</p> <p>防災講座 第1回 11時30分～12時30分 第2回 14時00分～15時00分</p> <p>防災食の試食 10時～15時（講座開催時間帯除く）</p> <p>防災トイレの体験・比較展示 10時～15時（講座開催時間帯除く）</p> <p>防災備蓄品展示 10時～15時</p> <p>場所 山手台東自治会館、山手台東2丁目公園</p> <p>参加人数 約300人 祭り受付世帯 140世帯 アンケート回収世帯 106世帯</p> <p>内容</p> <p>(1) コンサート</p> <p>市制70周年を盛り上げるため、地域の音楽教室にミニコンサートの開催を依頼しました。教室講師と生徒による演奏を聴くため、地域住民だけでなく周辺自治会の方の観覧も多くみられ、多くの方にこのイベントについて知っていただくことができました。</p> <p>(2) 防災講座</p> <p>宝塚市都市安全部総合防災課 大柴様・岩崎様に、防災意識の向上を目的にした出張講座を依頼しました。各回25名程度の参加者が受講しました。講座後の質疑応答のなかで、宝塚市が取り組む災害時における宝塚市の取組みについてもお話をいただき、自助>共助>公助の認識を新たにすることができました。</p> <p>(3) 防災食の試食</p> <p>企画段階から、「防災食を食べたことがない」「防災食なんて食べたくない」というが声が多いという声が多く聞かれていました。これを受け、防災食の味見や防災食をどうやって作るか、また、防災食がどこで売られているかなどについて、啓発する必要性があると感じていました。</p> <p>そこで、①アルファ米と常温で食べられるカレーをスプーン1杯分、②災害時でもおいしく食べられる缶パンの試食体験を実施したところ、年配の方・子どもを含め、「おいしい」「これなら家で準備できる」など、好意的な感想を持っていただくことができ、各家庭での防災時の食品について、認識を深めていただくことができました。</p>

(4) 防災トイレの体験・比較展示

企画段階から、被災時の排泄については、最も大切な事項であるにもかかわらず目を背けてしまっている、という声が多く聞かれました。このことから、準備段階で、担当者が実際に防災用トイレを使用してみることで使用感を試したり、製品別コストや凝固具合など何度も試すことで学びを深めました。

当日は、プラスチック容器に、凝固剤と生理食塩水を混ぜたものを、3製品分比較展示し、また、参加者にも作成していただくことで、準備担当の学びを地域住民に共有することができました。

聞き取りの範囲ではありますが、家に防災トイレの備蓄がない、防災トイレを持っていても袋の中を見たことがない、などの意見が聞かれ、今回の展示を受け、ホームセンターで実際に購入してみるという声も多く聞かれたことから、有意義な取り組みだったと考えています。

(5) 防災備蓄品の展示

準備段階の宝塚市都市安全部総合防災課担当職員との協議の中で、宝塚市の備蓄保有状況が、市民全員分を賄う量ではないということを聞いており、自主備蓄（自助）の必要性を痛感していました。このことについて、自治会として（共助）何ができるのかを検討した結果、1週間の備蓄を準備するとしたら、どの程度のものなのかということを実際にシミュレーションすることで、備蓄意識の向上を図るということを狙いとしました。具体的には、飲食、身体の清潔、暑さ寒さ対策等の備蓄品を展示することにしました。4人家族（50代夫、40代妻、10代男子、10代女子という本地域で最も多いと想定される典型的な家族）が7日間生き延びることができるものについて、準備担当で何度も話し合い、準備しました。先述のトイレの数（196回分）をはじめ、水（84L）、ガスボンベ、口腔ケア用品等の展示は、来場者にインパクトを与えるのに十分で、このコーナーの前に立ち止まり、質問ややりとりがかなりあり、有意義な取り組みであったと認識しています。

3 市制70周年をお祝いした内容

山手台東自治会では、住民の自治を基本に活動してきました。住民は、ほかのどこでもない「宝塚市」において、不動産を購入し定住することを選択した世帯で成り立っており、宝塚市行政が、70年間の間、大過なく執り行われてきたことに大変感謝しています。

次の10年間においては、この地域における少子高齢化に伴う課題に向き合い、自身の住むまちの自治会が存続することで、宝塚市と一層の協働ができるよう願っています。

具体的には、下記の取り組みを通じて、市政70周年をお祝いしました。

- ・地域住民に配布したイベントチラシに、市政70周年記念ロゴを印刷
- ・コンサート前の自治会長挨拶に、宝塚市が市政70周年を迎えたことに言及
- ・防災講座の挨拶に、宝塚市が市政70周年を迎えたことに言及
- ・宝塚市長の表敬の際、70周年及び80周年に向けての期待について応答
- ・その他、恒例の祭りについて、例年にはない取組み（防災、コンサート）を実施しようとする機運を醸成できたこと。

4 事業の効果・成果

各地での災害直後には、防災として何かしなくては…という思いに駆られますが、しばらくすると日常に追われ特に対策することがない方がほとんどだと考えられます。

今回、来場者からは、「備蓄品のイメージができた」「トイレのイメージができた」「自分の家の備蓄品について準備すべきことがわかった」などの声が聞かれました。このことから、公助<共助<自助の認識が深まったと考えています。

また、「自治会がこんなに防災について考えているとは知らなかった」など、自治会の意義についての感想も聞かれました。加入率が低下傾向のなか、住民に資する内容の活動ができたことに意義があったと感じています。

さらに、準備を進めるなかで、防災に関すること、地域に関することについて、役員どうおしが何度も協議、知識を身に着けるとともに互いの交流を深めることができました。

このことは、今後の地域防災（共助）を推進していくうえで大きな財産となると考えています。

5 実施した安全対策

- ・入口と防災食試食コーナー付近に消毒用アルコールを設置。
- ・保険は、平常時より、自治会役員活動におけるボランティア保険に加入済。